

大正時代の学習ノート

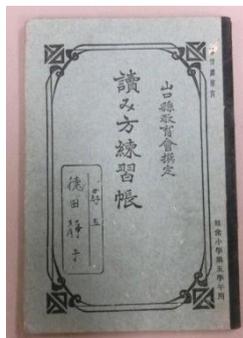
教科書とノートは、子供たちにとって一番大切な勉強道具です。これは今も昔も変わりありません。とりわけノートは、授業中に黒板を写し、漢字の書き取りや計算練習をし、作文を書き、さらには理科の観察日記を付けるなど、ノートに書かれてあることは、まさに勉強の跡そのものです。各時代のノートを見比べると、学習内容はもちろんのこと教授方法の違いも見て取ることができ、その意味でノートは各時代の学びの姿を反映していると言えるでしょう。

今回の展示では、義務教育がほぼ行き届いた大正時代の小学生のノートを徳田家文書(山口市)の中から紹介します。当時の子供たちはどのようなノートを使ってどのようなことを勉強していたのでしょうか。あわせて当時使われた文房具を展示し、当時の子供たちの学習の姿を見てみます。(※期間中、教科ごとに展示替えをします。)

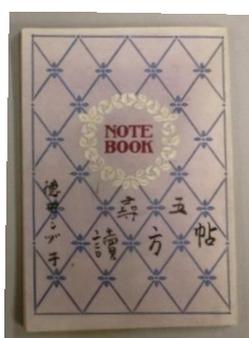
	きょうか	てんじきかん
1 じかんめ	こくご	1/5 (火) ~ 1/17(日)
2 じかんめ	さんすう	1/19(火) ~ 1/31(日)
3 じかんめ	りか・しゃかい	2/2 (火) ~ 2/7 (日)
4 じかんめ	ずがこうさく・かてい	2/9 (火) ~ 2/14(日)
※べんきょうどうぐ	筆箱・石盤・算盤・ものさし	1/5 (火) ~ 2/14(日)



(綴方)



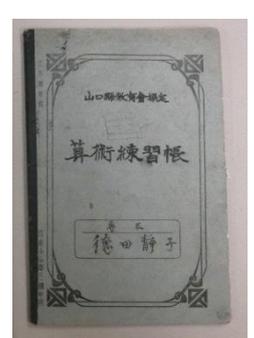
(読方)



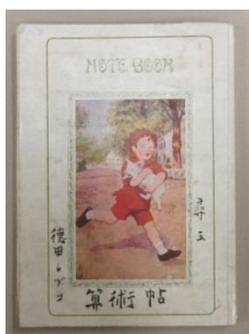
(読方)



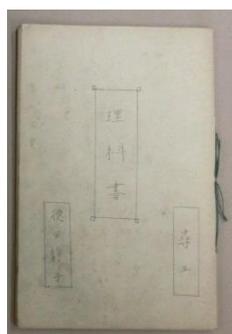
(読方・算術)



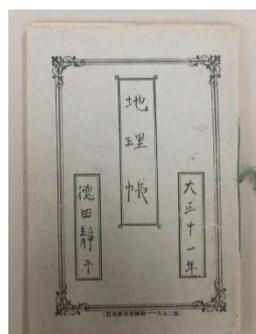
(算術)



(算術)



(理科)



(地理)



(図画)

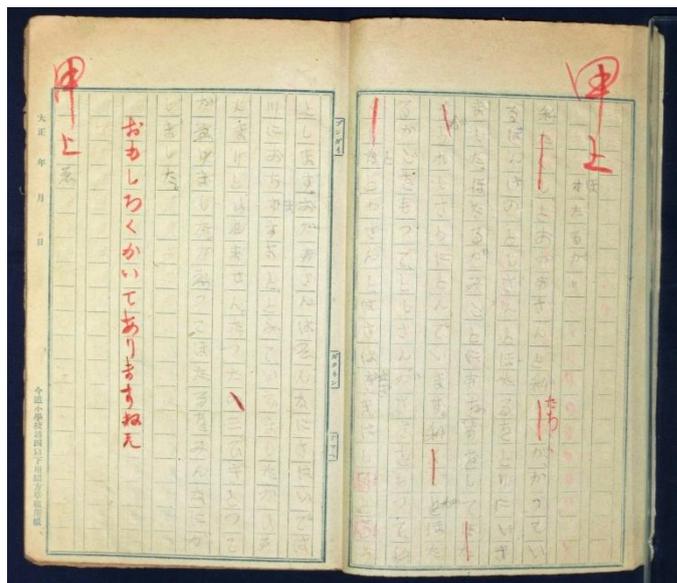


(裁縫)

《1じかんめ》 ～国語のノート～

史料1 「綴方帳」

綴方(作文)のノートです。表紙に「尋二(三) 徳田静子」と名前が書いてありますが、実際には複数の児童が交替で日常生活を綴っています。学級内でノートが回されたのかもしれませんが詳しいことは分かりません。教室内の描写、遠足、ほたる狩りのことなどがのびのびとした文章で書かれています。大正8年から9年にかけてのものと考えられ、先生の赤ペンのコメントに「おもしろく書いてありますねえ」や「よくかけました」などとあり、個性伸長を重視した大正時代の自由主義教育の影響が感じられます。(徳田家文書(山口市)231)



史料2 「国語・算術」

尋常小学校2年の「国語」と「算術」のノートで、右から開くと「国語」、左から開くと「算術」のノートとなっています。国語の部分では、学習単元の文章の書き写しや漢字の書き取りなど文字の練習が中心です。大正8年。(徳田家文書(山口市)236)

史料3 「読み方練習帳」

大正9年、尋常小学校3年の「読み方練習帳」です。表紙には「山口県教育会撰定」と書かれ、裏には明治天皇、毛利敬親、毛利元徳、吉田松陰、伊藤博文、乃木希典の和歌がそれぞれ印刷されています。定価は金5銭となっています。(徳田家文書(山口市)233)



史料4 大正時代の筆記用具

徳田静子氏所用の筆箱、筆記用具、石盤、白墨です。石盤は裏に「尋二(三) 徳田静子」と書かれてあり、尋常小学校2年から3年生ごろ使用されたものと考えられます。この石盤に白墨で字を繰り返し書き練習をしました。大きさは、現在のタブレット端末とほぼ同じです。

(徳田家文書(山口市)252～254)



《2じかんめ》 ～算数のノート～

史料5 算術練習帳

(徳田家文書(山口市)237)

尋常小学3年生の算術のノートです。このページでは、繰り上がりのある掛け算を筆算で行う練習をしています。史料7掲載の例題及び練習問題と一致しています。



史料6 尋常小学算術書 第三学年 児童用 (教科書-明治43(26))

この黒色の表紙の国定教科書は、明治37(1904)年から、昭和10(1935)年に緑色の表紙の教科書に変わるまで使用されました。3度改訂版が出されましたが、大正13(1924)年の改定の際に尺貫法からメートル法に変えられました。明治43(1910)年3月発行。



【史料7】

【史料6】

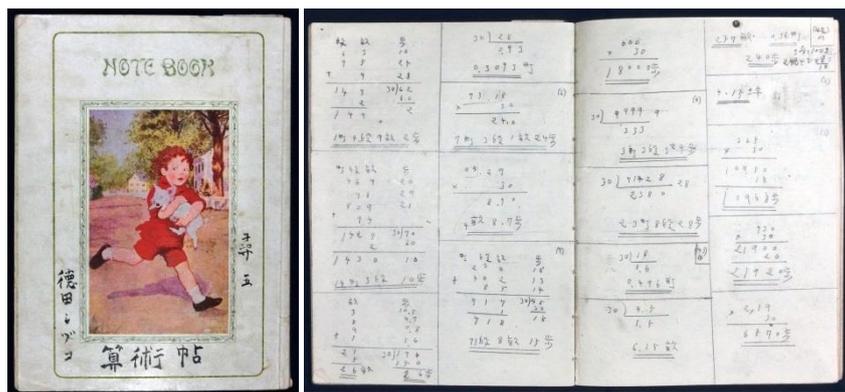
史料7 尋常小学算術書 第三学年 教師用 (教科書-大正8(5))

『尋常小学算術書 第三学年児童用』に対応した教師用の指導書です。大正8(1919)年3月に発行されたものです。34～35ページが史料5のノートに書かれてある学習箇所に対応し、指導方法や指導上の留意点が説明してあります。

史料8 算術帖

(徳田家文書(山口市)239)

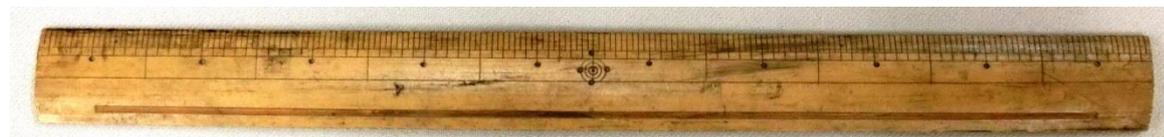
尋常小学5年時に使用された算術のノートです。きれいな表紙の絵が特徴的です。無地のノートで、メートル法ではなく尺貫法による計算練習がされています。



史料9 物差(直定規)

(徳田家文書255)

長さは1尺で、目盛りは1寸、5分、1分、5厘となっています。メートル法は、明治24(1891)年にわが国に導入され、大正10(1921)年に尺貫法は廃止されましたが、その後も両者は併用されました。昭和26(1951)年公布の計量法により、昭和41(1966)年4月1日以降の取引や公の業務における尺貫法の使用が禁じられました。

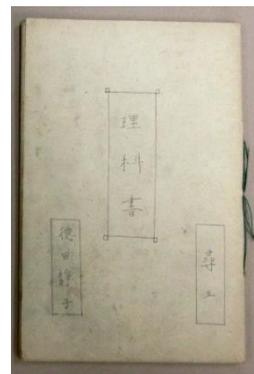
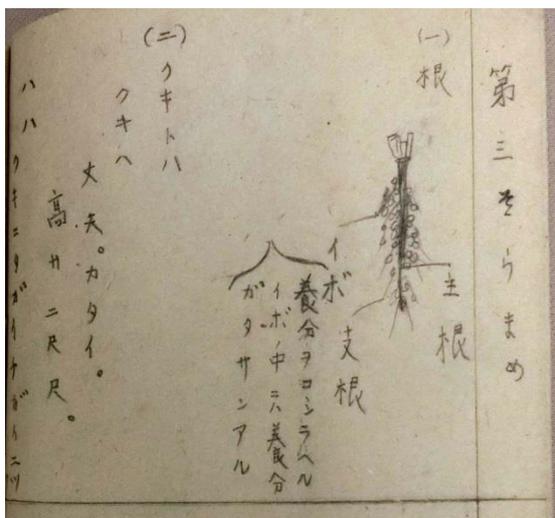


《3じかんめ》 ～いか・しゃかいのノート～

史料10 理科書 [理科のノート]

(徳田家文書(山口市)240)

尋常小学5年生の理科のノートです。このページでは、「そらまめ」の生態について図を模写しながら学習しています。



史料11 『尋常小学 理科書 第5学年 児童用』

(教科書-昭和5(8))

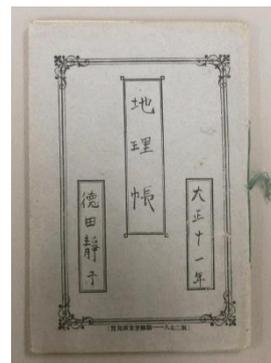
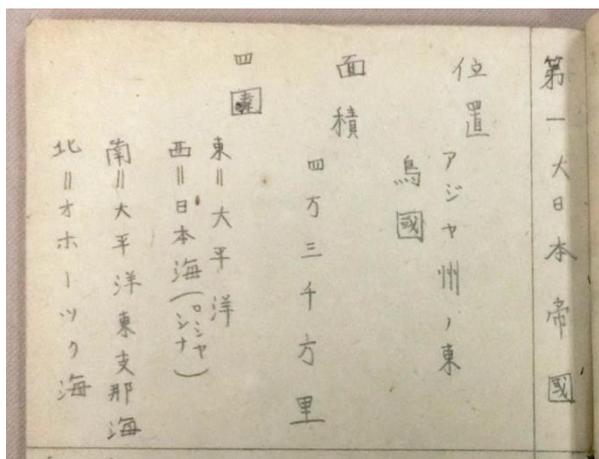
1930(昭和5)年3月発行の尋常小学5年生の理科の教科書です。

理科の授業は、1919(大正8)年の小学校令施行規則の改正により、尋常小学4年生から始められるようになりました。それ以前は尋常小学5・6年で学習していました。

史料12 地理帳 [地理のノート]

(徳田家文書(山口市)240)

尋常小学5年生の地理のノートで、1922(大正11)年度に使用されたものです。国の位置や面積の学習から始められています。



史料13 『尋常小学地理書附図』

(中村家文書(山口市徳地)132)

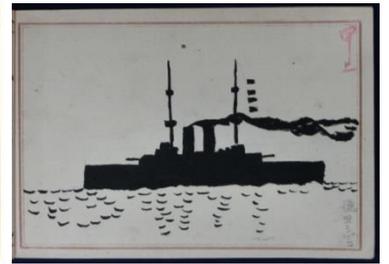
1924(大正13)年1月発行の『尋常小学地理書附図』です。地図の学習に用いられました。

《4 じかんめ》 ～図画・裁縫のノート～

史料14 「図画練習帳」

(徳田家文書(山口市)245)

尋常小学3年生の図画のノートと作品です。史料16の教科書の中にある図が写し取られています。



史料15 [図画] (茸)

(徳田家文書(山口市)245)

尋常小学5年生の図画の作品です。右側は史料16の教科書のお手本です。



(作品)



(手本)

史料16 『尋常小学 新定画帖』

(徳田家文書(山口市)246~248)

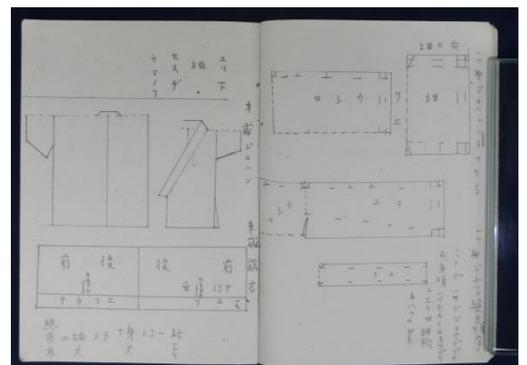
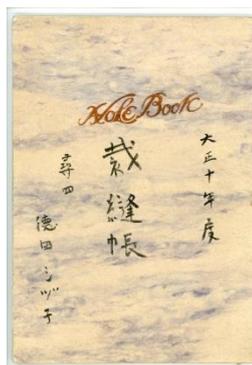
1910(明治43)年発行の尋常小学校の図画の教科書です。左から3年生用・4年生用・5年生用です。



史料17 「裁縫帳」

(徳田家文書(山口市)243)

尋常小学4年生の裁縫のノートです。このページでは「一つ身の襦袢」の縫い方を学習しています。



史料18 『裁縫教科書』

卷一～三』

渡邊辰五郎編纂

(教科書文庫 明治30(6~8))

1897(明治30)年発行の裁縫の教科書です

